

縄文のみちの

# 樹木

700年以上の歴史を持つ池上本門寺の崖線には、都内でも有数の自然林であるスタジイ群落が残されており、カシ類とともに立派な常緑広葉樹林を形成している。大田区立本門寺公園は1933年本門寺関係者の熱意により公園の建設が決定され、緑地の保全を目的に作られた。その後、東京市の公園になり、1970年に大田区立の公園になった。常緑広葉樹のほかには落葉広葉樹も多く、小学校の野外授業などにも使われている。生物にとって多様性に富んだ環境であり、多数の生物種が見られる貴重な場所である。



## スタジイ (ブナ科・常緑高木)

樹皮は黒褐色で、老木は縦に深く裂ける。縄文のみちに最も多い樹木。元々は暖地の海岸沿いの山地に多く、よく枝分かかれ、多くの葉をつけ樹形はこんもり丸い。心材は腐朽しやすく、葉が多くついている枝でも内部は空洞だったりする。どんぐりは翌年成熟。食べることができる。



## クロマツ (マツ科・常緑高木)

樹皮は灰黒色で、老木になると深い亀甲状に裂け目ができ、厚い不規則な断片となって剥がれ落ちる。日本では山地はアカマツ、海岸はクロマツが多い。



## カシ類 (写真はアカガシ)

アカガシ (ブナ科・常緑高木)  
樹皮は灰黒褐色で、皮目は目立たないが多い。老木では、不揃いな薄片となって剥がれる。屋敷・神社に多い。材は強く、堅いため農具などに。どんぐりは翌年成熟。  
シラカシ (ブナ科・常緑高木)  
樹皮は灰黒色。皮目が縦に並び、細かい縦縞がある。どんぐりは秋に成熟。



## ケヤキ (ニレ科・落葉高木)

樹皮は灰白色で、老木ではうろこ状にはがれる。日本の樹木としては20m以上の巨木になり、寿命も長い。材は木目が美しく、狂いがないので建材や家具材として重要。関東地方に特に多いのは、徳川幕府の奨励策による。



## コナラ (ブナ科・落葉高木)

樹皮は灰白色で縦の不規則な割れ目がある。日当たりの良い山野に、普通に見られる。かつては薪炭材として、里山の代表樹種だった。どんぐりは秋に成熟。



## イヌシデ (カバノキ科・落葉高木)

樹皮は灰褐色で、灰白色の模様が入る。老木では浅く裂ける。シデは、垂れ下がる果穂が玉串につける四手に似ているため。



## エノキ (ニレ科・落葉高木)

樹皮は灰黒色で、やや凸凹がありざらつく。「榎」の漢字は、夏に道路脇の大樹が木陰を作るので、夏の木の意味。果実は10月頃に赤褐色に熟す。種子は果実に比べると大きい。



## クスノキ (クスノキ科・常緑高木)

樹皮は暗褐色で縦に細かく裂ける。古くから神社などに植えられている。葉は樟脳(しょうのう)の材料になる。実は秋に黒く熟し、小鳥の好物。大田区の木に選ばれている。



縄文のみちの

# 昆虫



常緑樹と落葉樹の両方がある縄文のみちでは、明るい林を好むアゲハやアオスジアゲハ、カラスアゲハがみられ、茂みの中では樹液に集まるマダラヒカゲの仲間が見られる。夏にはニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツツクボウシが鳴いている。本門寺公園では、夏の夕方からセミの羽化の観望会もよく行われている。秋が近づくにつれツツレサセコオロギの音色が楽しめる。また、子どもたちに人気の甲虫類も多く、カブトムシが最近見られるようになった。これからも大切に守り、いつか子どもたちがカブトムシとりを楽しめる森に育てていきたいものである。



春～秋 ヒメジャノメ



春～夏 アオドウガネ



夏～秋 ツツレサセコオロギ



夏 ミンミンゼミ



夏 カブトムシ



春～秋 ヨコツナサシガメ



## どんぐりとはっぱ

どんぐりは木の名前ではなく、ブナ科の木の実の呼び名である。縄文時代にはアワヒエと同じく大切な主食であった。どんぐりのアク抜きをするためや保存のために縄文土器が作られたとも言われている。スタジイ・マテバシのどんぐりはそのままで食べられる。



**スタジイ**  
殻斗(かくと、俗にいうどんぐりのハカマのこと)はどんぐり全体を包み、熟すと裂ける。実は翌年秋に成熟。



**シラカシ**  
殻斗は輪状の模様。実は秋に成熟。



**ケヤキ**  
どんぐりはできず、球形の実が10月頃灰黒色に熟し、小枝をつけたまま、風で飛ぶ。



**コナラ**  
殻斗はうろこ状模様。実は秋に成熟。



## セミやアメンボもカメムシファミリー

カメムシというと、多くの人は「さわると、あの臭いにおいを出す虫」と考えるだろうが、実はいろいろな昆虫がカメムシファミリーなのである。カメムシの仲間の特徴の一つが、汁を吸うのに適したストロー状の口をしていることで、例えばセミは、口が樹液を吸いやすい形をしている。また、ヨコバイ(子どもたちはバナナムシとよく呼んでいる)や庭の植物について嫌われるアブラムシは、植物の汁を吸っている。水面にいるアメンボや水中のマツモムシ、タガメも意外に思うかもしれないが、カメムシの仲間である。